



昨晩は仲秋の名月が夜空にくっきりと白銀に輝きました。いよいよ秋気冷涼の頃となりました。この晩を待って、私の胃袋にお月見団子が収まり、天高く馬肥ゆる秋です。馬ならぬ私が肥ゆる秋です。どのようにこの難儀を凌いでいけばいいか。手立てはあっても実行は難しいものです。

夫も涼しくなって、魚への「餌やり」を思い出し、今日は城ヶ島の北東にある堤防へ行ってみたいということで、早朝から出かけました。その堤防は城ヶ島の向かい岸の三崎に向かって突き出ているだけの素朴なもので、眺めを楽しめる場所ではありません。

夫をそこに置いて、駐車場に戻るとそのバス停が「白秋碑前」でした。そういえば、♪ 雨はふるふる 城ヶ島の磯に 利休鼠の 雨がふる 雨は真珠か 夜明けの霧か それともわたしの 忍び泣き ♪ という歌があったっけと思い出し、そちらへ行ってみました。バス通りのすぐそばに「白秋碑苑」のたていしがあり、松の林へ伸びる細い小径が私を招いていました。誰も通らない、静かな、緑の道を進んでいくと、城ヶ島大橋の真下のような場所に碑が立っていました。そこは岩の城ヶ島とは全く違う白い砂浜でした。西側を見ると富士山がかすかに正面に見えました。素敵な眺めでした。



やがて夫が堤防はかなりの釣り人がいるうえ、風が強いからいつもの「高跳び」に移動したいということでした。堤防には夜釣りを楽しんだ人がいたのか、テントが幾張かあったそうです。そこでお馴染みの諸磯へ向かいました。諸磯漁港は風待ち港のようで、屏風のような小山に守られています。小山の先は岩場になっています。釣り場に行くにはごつごつした岩の中の細道を捜して歩き、崖に沿ってしゃがんで歩いたり、岩と岩の波間を濡れないように越えたりして行きます。道中は大変ですが、眺めは最高です。伊豆大島、伊豆半島、富士山、江の島、丹沢を眺められるからです。ここに来ると気分がいいのです。後期高齢者のお婆さんが行く所？などと言いながら、その景色を求めて、私も岩にしがみつなぎながら、細心の注意をして高跳びまで一度は行ってみます。



夫は釣り竿 2 本、釣り用道具一式、タモ網、クーラーボックス、餌、バケツなどを抱えて、滑り止めブーツ、ライフジャケットを着用しています。今回はかなりの重労働と感じてしまったようです。



私は夫の釣りの間、車の中で浜矩子氏の『どアホノミクスよ、お前はもう死んでいる』を読みました。安倍政権の愚を突いています。政治家は国民の代理、公僕として勤めを果たしてほしいものです。



夫は今日は食べられる程度の大きさ(?)の魚だけを持ち帰りました。晩のおかずにお煮つけにしてみました。やはり新鮮です。また、苦勞の結実と思えば、いやが上にも、美味しく感じずにはられません。

